総合的な学習の時間	第５学年	大竹市立大竹小学校	

単元名

「笑顔広がれ　大竹のまち」
～高齢者の方とつながろう～

課題発見・解決能力，主体性

１　日　時　　令和５年 10 月 27 日（金）１校時

２　学　級　　第５学年１組（男子 16 名，女子 16　計 32 名）

３　単元設定の理由

（１）単元観

地域には，さまざまな立場の人々が暮らしている。その中でも地域の高齢者の方とのつながりを通し，大竹市で暮らす人々が共に笑顔で生きていけるまちづくりに社会の一員として携わり，主体的に活動する児童の育成をねらい，探究課題を「笑顔広がれ　大竹のまち」とし，単元を設定した。日本や大竹市の高齢者の方の現状を調べ，高齢者の方の思いや課題を学ぶことで，高齢者の方とのより良い関係を築くことへの意欲を高め，相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーション能力を身に付けることができると考える。また，高齢者の方の抱えている課題の解決のために，自分たちにできることを相手の立場に立って考え，実践する活動を通して，自ら課題を設定し，進んで解決する力をつけることができると考える。

探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 探究的な学習の過程において，課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究的な学習のよさを理解するようにする。

② 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

（２）児童観

本学級の児童は，４年生の総合的な学習の時間で「生命」をテーマに，災害や防災，命を守るための取組や自分と身近な人について取り上げ，家族や地域の人々に支えられて今の自分があることに気付くことができた。

高齢者の方との関わりに関する児童アンケート（５年１組３３人）

	はい	いいえ
祖父母や曽祖父母（高齢者）と同居している	６％	９４％
祖父母といろいろな方法（直接，電話，メール等）で話をよくする	５２％	４８％
地域の高齢者の方と触れ合う機会がある	３０％	７０％

アンケートの結果にあるように，高齢者の方と同居している児童は少ないが，電話やメールで話をするなどのいろいろな方法で祖父母とよく話をしている児童は全体の約５割である。また，地域の高齢者の方と関わっている児童は全体の約３割で，触れ合い方は「学校の登下校で挨拶をする。」程度にとどまっている児童が多い。地域の高齢者の方と触れ合っていないと答えた児童の中には，登下校で挨拶はするがそれを高齢者の方との触れ合いであると認識していない児童もいると考えられる。以上のことから，地域の高齢

者の方と触れ合うことが少ないという課題が考えられる。また，高齢者の方に対しては，「歩くのが遅い」「病気が多い」「家事が大変そう」「優しい」「挨拶をしてくれる」というイメージをもっており，それに対して，「助けたい」「何かできることはないか」「仲良くしたい」という気持ちをもっているが，高齢者の方の抱えている困り感や不安が何であるのか，具体的にどのような行動をとればいいのかを考えることができる児童は少ない。

（３）指導観

本単元では，地域に住む高齢者の方が抱えている課題や願い，高齢者の方を支える人の願いを知った上で，地域の高齢者の方と触れ合おうとする児童を増やしていくために，次の点に留意する。

①ＰＢＬ（※）の考え方を用いた課題発見・解決学習

大竹のまちを笑顔にするという大きな課題を設定し，高齢者の方の現状や願い，高齢者の方を支える人々の現状や願いを調べたりインタビューしたりして把握し，自分たちに何ができるか考え，計画・行動し，解決することができるようにする。その過程で疑問や新たな課題を見つけられるように仕組み，その度に疑問や課題を解決するにはどうすれば良いかを考え，行動しながら大きな課題の解決に向かっていくプロセスを大切にする。

※ＰＢＬ（プロジェクト型学習）…ひとつの解が存在しない発展性のあるプロジェクトを扱う学習。

②思考ツール

児童が考えたことを可視化し，考えることを助けられるよう，学びに応じた思考ツールを活用することで，児童自身が自分の学習を整理し，次の思考につなげられるようにする。

③リフレクションの活用

調べたことや活動内容をその都度振り返り，自分のできたこと，できなかったこと，そしてゴールに向けて必要なことを考え，次の学びにつなげていくようにする。また，児童の学習を重ねるごとに変容する考えや，高齢者の方に対する思いを児童自身が実感し，それを学習の成果だと捉えられるよう，必要に応じて前時までの振り返りや学びを見返すことのできるような掲示を行う。

④ルーブリック評価の活用

評価に関しては，自分の考えと友だちの考え，高齢者の方の願いや高齢者の方を支える人の願いを照らし合わせながら，高齢者の方の立場に寄り添い，自分たちにできることを考えているかどうかを見取っていく。それぞれの評価規準にルーブリック評価を作成し，指導することと評価する基準を合わせる。また，授業の際にルーブリック評価の基準を児童に提示することで，児童は自分たちの目指す姿が分かり，何をすべきか，どうすればより良い学びになるのかを明確にする。さらに，自分の学びをルーブリック評価基準と照らし合わせ，自己評価することにより，次時の活動意欲につながるようにする。

⑤ファシリテーション

児童一人一人が高齢者の方に関わることを自分事として捉え，興味をもって学び続けることができるように，教師はファシリテーターの役目に徹するようにする。探究のプロセスを児童と共有することで，児童が目的をもって，自主的に計画を立て，探究していけるようにする。

４　単元の目標

高齢者の方や高齢者の方に関わる人々の現状について調べる活動を通して，その人たちの課題や願い・思いがあることを理解し，今の自分たちにできることを考えるとともに，共に笑顔で生きていけるような地域につながることを実行できるようにする。

5　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　高齢者の方の現状や立場や課題，彼らを支える人々の願いや思いを理解している。 ②　目的をもって，タブレットや図書等を活用し，適切に情報を収集している。 ③　「高齢者の方の笑顔を広げたい」という思いの高まりは，高齢者の方や高齢者の方を支える人々の抱えている課題等について探究的に学習してきた成果であると気付いている。	①　高齢者の方が抱える課題や現状を知り，大竹に住む人たちの笑顔を広げるために，学習課題を設定している。 ②　インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から必要な情報を取捨選択している。 ③　収集した情報を整理・分析している。 ④　収集した情報から今の自分達にできることを考え，まとめている。	①　異なる意見や他者の考えを受け入れながら，課題解決に向けて取り組もうとしている。 ②　「高齢者の方の笑顔を広げる」課題解決に向けて，見通しをもち，友だちと協働しながら意欲的に取り組もうとしている。 ③　自分と地域の関りを考えながら，共に笑顔で生きていけるような地域にしていこうとしている。

6　単元のルーブリック

知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
①	A	高齢者の方の現状や立場や課題，彼らを支える人々の願いや思いを理解し，大竹に住む高齢者の方以外の課題にも気付いている。	①	A	高齢者の方が抱える課題や現状を知り，高齢者だけでなく大竹に住むたくさんの人たちの笑顔を広げるために，学習課題を設定している。	**①**	**A**	**異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分事として捉え，課題解決に向けて取り組もうとしている。（本時）**
	B	高齢者の方の現状や立場や課題，彼らを支える人々の願いや思いを理解している。		B	高齢者の方が抱える課題や現状を知り，大竹に住む人たちの笑顔を広げるために，学習課題を設定している。		B	**異なる意見や他者の考えを受け入れながら，課題解決に向けて取り組もうとしている。（本時）**
②	A	タブレットや図書等を活用し，必要な情報を理由や背景も含めて集めている。	②	A	インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から必要な情報を取捨選択し，不足している情報を自主的に収集している。	②	A	「高齢者の方の笑顔を広げる」課題解決に向けて，見通しをもち，友だちと協働したり，自主的に活動したりして意欲的に取り組もうとしている。
	B	目的をもって，タブレットや図書等を活用し，適切に情報を収集している。		B	インターネットや図書，ゲストティーチャーの話等から必要な情報を取捨選択してい		B	「高齢者の方の笑顔を広げる」課題解決に向けて，見通しをもち，友だちと協働しながら意欲的に取り組

					る。			もうとしている。
③	A	「高齢者の方の笑顔を広げたい」という気持ちが，なぜ高まったのか，その理由も考え，今後の生活や学習につなげたいという思いをもっている。	③	A	収集した情報の共通点や差異点を見つけ，関係や傾向を明らかにしながら整理・分析している。	③	A	自分と地域の関りを考えながら，共に笑顔で生きていけるような地域にしていこうと考え、実際に活動しようとしている
	B	「高齢者の方の笑顔を広げたい」という思いの高まりは，高齢者の方や高齢者の方を支える人々の抱えている課題等について探究的に学習してきた成果であると気付いている。		B	収集した情報を整理・分析している。		B	自分と地域の関りを考えながら，共に笑顔で生きていけるような地域にしていこうとしている。
			④	A	収集した情報から今の自分達にできることを考え，表現方法の特徴や目的に合わせて分かりやすくまとめている。			
				B	収集した情報から今の自分達にできることを考え，まとめている。			

7　単元の全体計画（全 32 時間）

次	学習内容	評価			
		知・技	思判表	主体的	評価方法
1	＜課題の設定＞ ○高齢者の方について知っていることや思っていることを出し合う。（1）		①		発言・思考ツール・リフレクションシート
	○大竹に住む高齢者の方の「笑顔が広がる」とはどうなることなのかを考え，学習計画を立てる。(1)		①		発言・ワークシート・リフレクションシート
2	＜情報の収集＞ ○高齢者の方のくらしや現状，課題を調べる。（4）	②			行動観察・ワークシート
	○施設で働く介護士について調べる。（2）	②			行動観察・ワークシート

	○福祉施設の方から話を聞き，認知症や，介護者の抱えている課題や願いについて知る。（認知症サポーター養成講座，介護ヘルパー講座）（３）		②		発言・行動観察・ワークシート・リフレクションシート
	＜整理・分析＞ ○地域の高齢者の方が抱えている課題を整理し，さらに知りたいことについて考え，取材をする計画を立てる。（２）		③		発言・ワークシート・リフレクションシート
	○身近にいる高齢者の方や福祉施設の方から情報収集し，大竹市の高齢者の方が抱えている課題や，願い等について整理する。（２）	①			発言・ワークシート・リフレクションシート
	○これまでの学習をもとに，高齢者の方を笑顔にするために自分たちにできることについて，友だちの意見も取り入れながら考えることができる。（本時）（１）			**①**	**発言・行動観察・リフレクションシート**
	○地域の高齢者の方のために自分たちができることを考え，課題解決のための計画を立てる。（１）			①	発言・ワークシート・リフレクションシート
	＜実行＞ ○計画をもとに「高齢者の方の笑顔を広げる」ために必要な準備をする。（４）			②	行動観察，ワークシート・リフレクションシート
	○計画をもとに「高齢者の方の笑顔を広げる」ために必要なことを実行する。（２）			②	行動観察・成果物・リフレクションシート
3	○住みやすい大竹市にするための提案をする計画を立てる。（５）			③	行動観察・ワークシート・リフレクションシート
	＜まとめ・表現＞ ○他学年に提案する。（２）		④		行動観察・成果物・リフレクションシート
	○実行し終え，考えたことを交流する。（２）	③			発言・ワークシート・リフレクションシート
	＜振り返り＞ ○今までの活動を振り返る。（１）			③	発言・ワークシート・リフレクションシート

８　単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

資質・能力	目指す児童像
課題発見・解決能力	自分の住む地域の現状を調べることで，課題を見つけ，それを解決するために自分たちにできることを考え，実行することができる。
主体性	地域の高齢者の方とのつながりを通して，大竹で暮らす人々が共に笑顔で生きていけるまちづくりに社会の一員として携わり，「大竹を愛する」大竹市民の一員として主体的に活動することができる。

9　本時の展開

（1）　本時の目標

これまでの学習をもとに，高齢者の方を笑顔にするために自分たちにできることについて，友だちの意見も取り入れながら考えることができる。

（2）　準備物

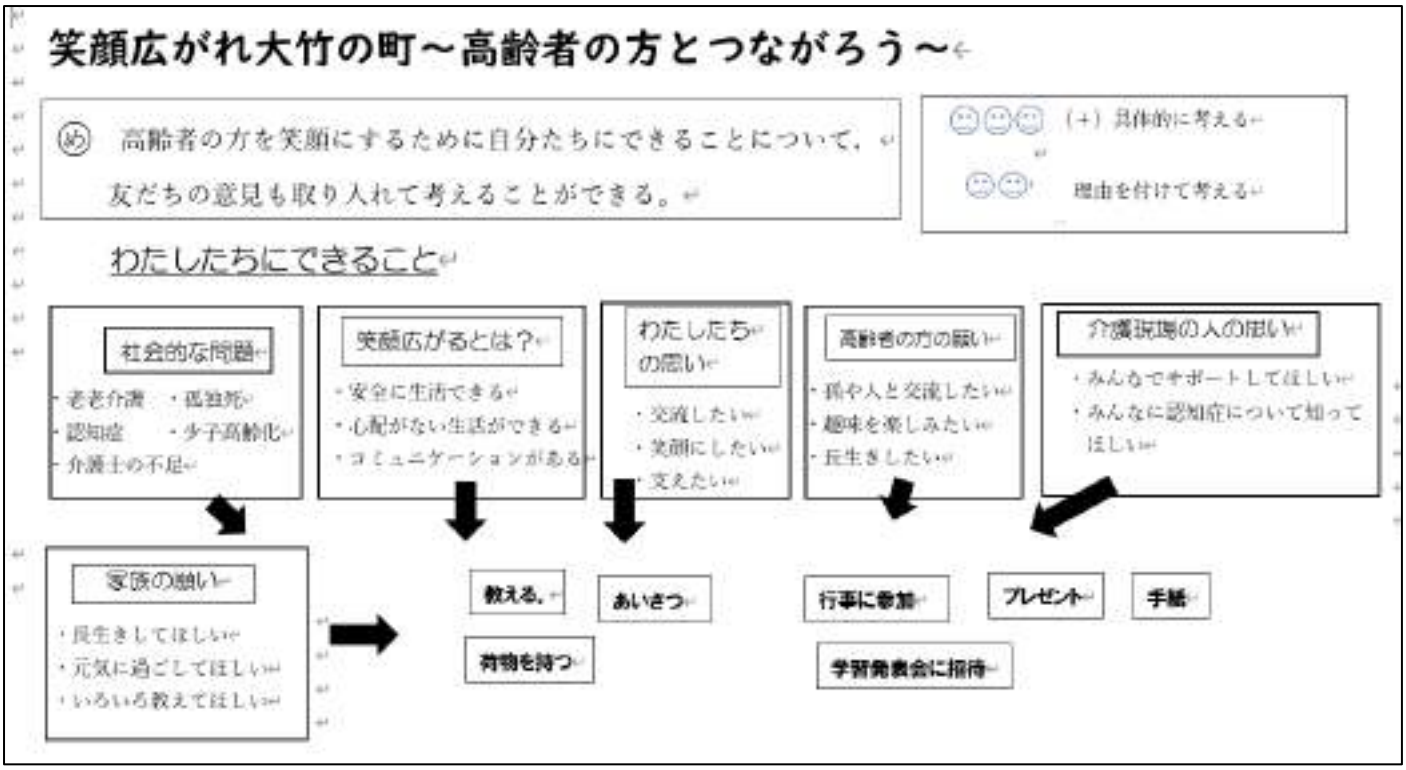
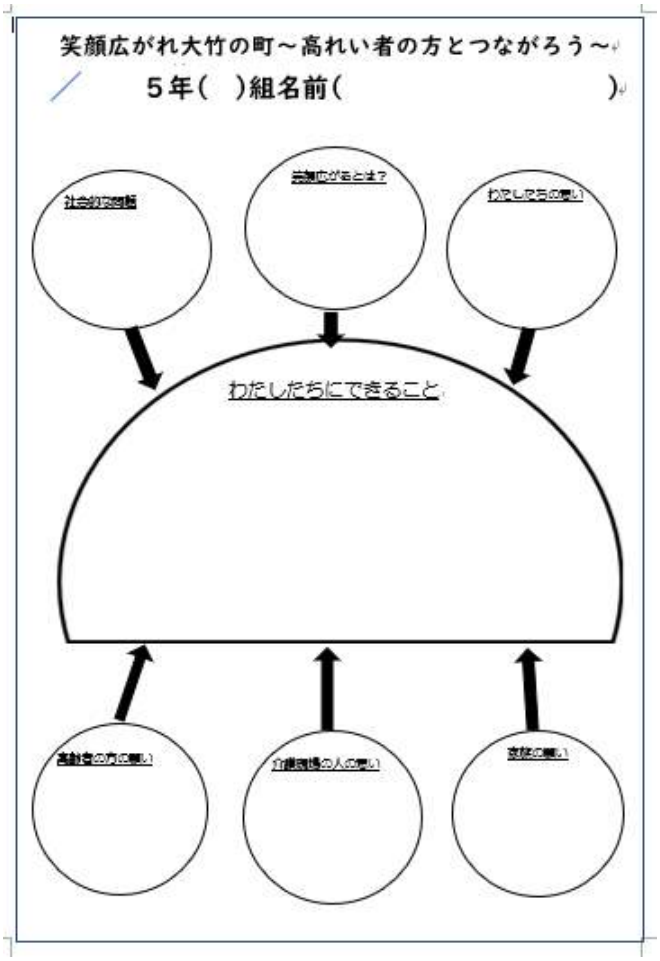
モニター，リフレクションシート，ワークシート，タブレット，短冊，マジック

（3）　展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項	【観点】評価規準（方法）
	Ｔ：主な発問・指示 Ｃ：予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ▲支援を要する児童への手立て	
見通しをもつ	１．前時までの活動について振り返る。 Ｔ：これまでどんな活動をしましたか。 Ｃ：自分で高齢者の方について調べたり，認知症講座で話を聞いたりしました。 Ｃ：高齢者の方の願いや，家族の願い，介護現場で働く人の思いを考えました。 ２．本時のねらいを確認する。	○調べ学習やゲストティーチャーの方のお話，これまで行った取材活動や，そこから整理分析した内容などについて振り返れるようにする。 ○教師は，話しやすい雰囲気をつくる。	
	㋮　高齢者の方を笑顔にするために自分たちにできることについて，友だちの意見も取り入れて考えることができる。		
自分の考えをもつ	Ｔ：今日のめあてはどうしますか。 Ｃ：自分たちにできることを考えます。 Ｃ：高齢者の方の笑顔が広がるようなことを考えます。 ルーブリック（主体①） 児童との評価の共有 A：（＋）具体的に考える。 B：理由を付けて考える。 ３．高齢者の方の抱える課題や願いをもとに，高齢者の方のために自分たちができることを考える。 Ｔ：高齢者の方を笑顔にするために，	○自分たちでめあてを考えられるようにする。 ○自分が高齢者になった時にどんなことをしてもらったら笑顔になるか考えられるようにする。 ○前時までにまとめた高齢者の課題や願いを参考にしながら，高齢者の方や彼らを支える人の願いをもとに考えられるようにする。	

	自分たちにできることは何だろう。 C：出会った時に明るい挨拶をする。 C：困っていたら優しい声をかける。 C：手紙を書く。	▲具体的な案が出ない児童には，自分がしてもらってうれしいことを考えられるようにする。 ○タブレットのアプリの付箋に，自分たちのできることを考え理由を記入できるようにする。 ○教師は，意見を引き出す質問を投げかける。	
考えを交流する	4．各自が考えたことを出し合う。 ＜グループ＞ T：付箋を見合いながら，なぜそれをしたらいいと考えたのか，理由も合わせて交流しましょう。 C：高齢者の方が元気になれるように，登下校で元気な挨拶をしたい。 C：高齢者の方が楽しく生活できるように，手作りのものをプレゼントしたい。 ＜全体＞ 自分たちが考えたできることを交流する。 T：グループで出た意見を黒板にはりましょう。 C：挨拶をしたい。 C：サポートしたい。 C：行事に招待したい。	○自分たちにできることを考えるときに，理由（それぞれの人の願いや課題とのつながり）を大切にできるようにする。 ○同じ考えや似たような考えを整理しながらまとめていき，短冊にキーワードを書くようにする。 ▲自分の付箋を貼ることで，意思表示ができるようにする。 ○短冊を黒板に貼る時は，似た意見を近くに貼るように声かけをする。 ○出た意見から，すぐに実行できるものがあることに気付かせる。 ○気付きが出ないときは，すぐに取り組めそうなものはないか教師が投げかける。	【主体①】 ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分の考えをもって課題解決に向けて取り組もうとしている。
振り返る	5．振り返り リフレクションシートに，今日の活動について振り返る。 T：次の時間はどうしたいですか？ C：アイディアが多く出た，プロジェクトの内容を決定したいな。 C：自分ができることをやりたいな。	○「行事で終わるもの」「継続していくもの」があることに気付かせ，本時の学びをまとめ，次時につなげる。	評価【主体①】 A: 異なる意見や他者の考えを受け入れながら，自分事として捉え，課題解決に向けて取り組もうとしている。 B: 異なる意見や他者の考えを受け入れながら，課題解決に向けて取り組もうとしている。 （発言・行動観察・リフレクションシート）

（4）板書計画



（5）ワークシート